

公開シンポジウム「人文社会科学分野学協会男女共同参画推進シンポジウム」の開催
について

1. 主 催：日本学術会議第一部総合ジェンダー分科会
2. 共 催：人文社会科学系学協会男女共同参画推進連絡会（GEAHSS）
史学会
4. 日 時：平成29年12月16日（土）13：00～16：30
5. 場 所：奈良女子大学記念館
6. 分科会等の開催：開催予定
7. 開催趣旨：人文社会科学学協会男女共同参画推進連絡会（GEAHSS）と連携をとりつつ、研究分野における男女共同参画について、学協会とともに、GOOD PRACTICE について情報共有をし、また課題について情報共有をする。
8. 次 第：

第1部 上野千鶴子氏講演会「志を受け継いで」

13：00-13：05 講演会 挨拶 松岡悦子（奈良女子大学アジア・ジェンダー文化学研究センター長、生活環境学部教授）

13：10-14：10 講演「志を受け継いで」

上野千鶴子（日本学術会議連携会員、立命館大学先端総合学術研究科特別招聘教授）

第2部 人文社会科学分野学協会男女共同参画推進シンポジウム

14：30 挨拶 三成 美保（日本学術会議副会長・第一部会員、奈良女子大学教授・
副学長）

14：40 Good Practice に学ぶ

永瀬 伸子（日本学術会議第一部会員、お茶の水女子大学基幹研究院教授、
学長補佐）

14：45 GEAHSS（ギース）の現状報告

後藤 弘子（日本学術会議連携会員、千葉大学大学院社会科学研究院教授）

15：45 参加学協会との意見交換

司会 井野瀬久美恵（日本学術会議連携会員、甲南大学文学部教授）

16 : 25 閉会挨拶 藤原聖子（日本学術会議第一部会員、東京大学大学院人文社会系
研究科教授）

9. 関係部の承認の有無：第一部承認

（下線の講演者は、主催分科会委員）

公開シンポジウム「博物館法をはじめとする関連法等の改正に向けて」（仮称）
の開催について

1. 主 催 日本学術会議史学委員会博物館・美術館等の組織運営に関する分科会
公益財団法人日本博物館協会
2. 日 時 平成30年1月20日(土) 13時30分～17時00分
3. 場 所 独立行政法人国立文化財機構 東京文化財研究所（台東区上野公園内）
地下セミナー室
4. 委員会等の開催 開催予定なし

5. 開催趣旨

平成20年の博物館法改正に続いて、平成24年4月に施行された「博物館法施行規則の一部改正」文科省令により、大学における学芸員資格取得に必要な科目・単位数が大幅に増加された。改正の趣旨は歓迎すべきであるが、一方で資格取得の困難化や一定水準の資格取得希望者の減少、指定管理者制度導入、公益法人制度改革の私立博物館運営への影響による学芸員の研究環境・待遇の悪化等を招いている。史学委員会博物館・美術館等の組織運営に関する分科会では施行後の博物館・美術館の現状を検討し問題点を指摘して、現行の博物館法等の改正に向けて、平成29年7月20日に、提言「21世紀の博物館・美術館のあるべき姿—博物館法の改正へ向けて」を発出した。一方、公益財団法人日本博物館協会は、「博物館登録制度の在り方に関する調査研究委員会」を内部設置して同様の検討を重ね、平成29年3月に報告書「博物館登録制度の在り方に関する調査研究」を出している。その検討内容は、日本学術会議の本分科会の提言に盛られた登録制度の在り方と目指す方向を一にする部分が多い。このため、共催の合同公開シンポジウムを開催することによって、提言内容について広く周知し、議論を深めることは有意義なフォローアップの機会となる。

6. 次 第

13:30 開会あいさつ

銭谷 眞美（日本博物館協会会長、東京国立博物館館長）

13:45 趣旨説明

井上 洋一（日本学術会議連携会員、東京国立博物館副館長）

14:00 報 告 1

小佐野 重利（日本学術会議第一部会員、東京大学大学院教育学研究科特任教授）

「提言の発出に至るまでの経緯と今後の課題」

14:25 報 告 2

芳賀 満（日本学術会議連携会員、東北大学高度教養教育・学生支援機構
教授）

「提言の内容について」

<休息>

15:00 報 告 3

山西 良平（日本博物館協会「博物館登録制度の在り方に関する調査研究
委員会」主査 西宮市貝類館顧問）

「博物館登録制度の在り方に関する調査研究報告書から見えてくるもの」

15:25 報 告 4

栗原 裕司（日本博物館協会「博物館登録制度の在り方に関する調査研究
委員会」委員、京都国立博物館副館長）

「平成 20 年の博物館法改正後の展開と今後の展望」

<休憩>

16:00 総合討論 司会 半田 昌之（日本博物館協会専務理事）

報告者 4 名

矢島 國雄（日本博物館協会「博物館登録制度の在り方に関する調査研究委
員会」委員、明治大学文学部教授）

栗田 秀法（名古屋大学大学院文学研究科教授）

16:55 閉会

7. 関係部の承認の有無: 第一部承認

（下線の報告者等は分科会委員）

公開シンポジウム「情報学シンポジウム」の開催について

1. 主 催：日本学術会議情報学委員会
2. 共 催：なし
3. 後 援：大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立情報学研究所 (NII)、国立研究開発法人情報通信研究機構 (NICT)
4. 日 時：平成 30 年 1 月 11 日 (木) 13:00~17:50
5. 場 所：日本学術会議講堂 (他 3 室)
6. 分科会等の開催：開催予定
7. 開催趣旨：本シンポジウムでは、「Secure Smart Connected Community の構築にむけて」というテーマで、情報学分野の最近の研究動向に関連した講演とパネル討論を行い、情報学の発展を促す施策からその社会的インパクトまで、情報学を取り巻くさまざまな話題に関する議論を行う。情報学におけるホットな話題として IoT、ビッグデータ、人工知能、サイバーセキュリティなどが学术界でも産業界でも、また我が国のみならず世界中で注目を集めている。これらの分野の研究が進展することで、日常生活でも産業分野でもネットワーク化・スマート化がさらに進むことが予想されており、我が国では第 5 期科学技術基本計画で提唱された超スマート社会、米国では Smart and Connected Communities などのビジョンが語られている。また、学術の発展に目を向けると、我が国の学協会におけるオープンサイエンス化の動きも活発化しているとともに、諸科学を広く覆う「メタサイエンス」としての情報学の果たす役割も重要となってきた。情報学に関わるこのような技術の高度化や基盤の整備が、未来の社会にどのようなインパクトを与えるかについて議論を深めたい。

そのために、米国 NSF 及び欧州から招待講演者をお招きし、情報学分野の最近の研究戦略に関して講演をいただく。我が国の動向に関しては、自動運転や都市のスマート化、防災／減災、超サイバー社会に関連する最近の施策の動向、さらに国の科学技術政策の推進に関わる情報学分野への期待・要望等に関する講演をいただく。情報学委員会からは、最近の活動状況を紹介する。パネル討論では、セキュアな超スマート社会の構築に向けた議論を行う。これらにより、現況における情報学分野の位置付けを明確にした上で、情報学委員会の審議活動につなげたいと考えている。

8. 次 第:

13:00 開会挨拶と情報学委員会報告

徳田 英幸 (日本学術会議第三部会員、国立研究開発法人情報通信研究機構理事長)

13:20 招待講演「情報通信分野に関連する最近の施策の動向の紹介」

講演者調整中 (文部科学省)

13:40 招待講演「NSFにおけるICTの展望 (仮)」

Ken Calvert (米国NSF CISE/CNS Division Director)

14:25 招待講演「EUにおけるICTの展望 (仮)」

Leonidas Karapiperis (駐日欧州連合代表部公使参事官) (予定)

15:10-15:30 (休憩)

15:30 講演「VaaS; Vehicle as a Social Infrastructure」

井上 友二 (トヨタ IT 開発センター顧問)

16:05 講演「AI Connects People for Natural Disaster Management」

鳥澤 健太郎 (日本学術会議連携会員、国立研究開発法人情報通信研究機構データ駆動知能システム研究センター長)

16:40 パネル討論「Secure Smart Connected Communityの構築にむけて」

(司会) 徳田 英幸 (日本学術会議第三部会員、国立研究開発法人情報通信研究機構理事長)

(パネリスト) Ken Calvert (米国NSF CISE/CNS Division Director)

Leonidas Karapiperis (駐日欧州連合代表部公使参事官)

井上 友二 (トヨタ IT 開発センター顧問)

鳥澤 健太郎 (日本学術会議連携会員、国立研究開発法人情報通信研究機構データ駆動知能システム研究センター長)

他、パネリスト2名調整中

17:40 開会挨拶

東野 輝夫 (日本学術会議第三部会員、大阪大学大学院情報科学研究科教授)

17:50 閉会

9. 関係部の承認の有無: 第三部承認

(下線の登壇者は、主催委員会委員)

公開シンポジウム「地方創生時代の看護系大学のチャレンジ
- 看護学の変革と課題-」の開催について

1. 主催：日本学術会議健康・生活科学委員会看護学分科会
2. 共催：日本看護系学会協議会
3. 後援：日本看護科学学会、第37回日本看護学学会学術集会
4. 日時：平成29年12月17日（日）16:30～18:00
5. 場所：仙台国際センター会議棟2階 萩
6. 分科会等の開催：開催予定
7. 開催趣旨：地方創生が叫ばれて久しくなったが、保険・医療・福祉の課題は山積している。これらの課題に、看護学の視点から、どのように向き合うことが必要なのか。従来の枠組みや考え方だけにとらわれず、新たな変革が求められている。
そこで、看護・介護・教育等の地方創生の取り組みの実際やモデル事業などの情報を共有し、地方の大学から発信する実践・教育・研究について、共に考える機会とする。
8. 次第：
 - 16:30 開会の挨拶
片田 範子（日本学術会議第二部会員、日本看護系学会協議会会長、関西医科大学看護学部設置準備室教授）
 - 16:35～17:50
 - 講演1. 基金を活用した高知県立大学の取り組み
森下安子（高知県立大学大学院 教授）
 - 講演2. 助産師卒後教育と宮城の助産師出向事業の体制作り
佐藤喜根子（東北大学大学院 名誉教授・宮城県看護協会助産師出向コーディネーター）
 - 講演3. 看護師と医療保険者の役割機能拡大による新たな慢性疾患ケア提供モデルの構築
森山美知子（広島大学大学院 教授）
 - 講演4. 看護とものづくり—大分県立看護科学大学における産学連携推進の取り組み

村嶋幸代（大分県立看護科学大学 学長・東京大学名誉教授）

17：55 閉会の挨拶

太田 喜久子（日本学術会議連携会員、慶應義塾大学看護医療学部教授）

18:00 閉会

9. 関係部の承認の有無：第二部承認

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開ワークショップ「国連の持続可能な開発目標（UN-SDGs）への学術の寄与を考える：国連 RCE セマティック会議 「SDGs の達成に向けた RCE 第一回世界会議（First RCE Thematic Conference: Towards Achieving the SDGs）」並行セッション」の開催について

1. 主 催：日本学術会議若手アカデミー、岡山大学
2. 共 催：株式会社ベネッセコーポレーション（予定）、国連大学サステナビリティ高等研究所（UNU-IAS）（予定）
3. 日 時：平成 29 年 12 月 5 日（火）14:30～18:00、12 月 6 日（水）10:00～12:00
4. 場 所：岡山コンベンションセンター
5. 分科会等の開催：なし
6. 開催趣旨：国連の持続可能な開発目標を理解し、若手・地方から発信するための、関連した学術活動の在り方を、8 月会合の結果を踏まえながら考える。
7. 次 第：

12 月 5 日【パネルディスカッション】

14:30～15:50（岡山コンベンションセンター）

開会挨拶（5 分）

狩野光伸（日本学術会議連携会員、岡山大学副理事（研究担当）、岡山大学大学院医歯薬学総合研究科副研究科長・教授）

来賓挨拶（5 分）山中伸一（経済協力開発機構（OECD）日本イノベーション教育ネットワークボードメンバー）

パネルディスカッション（75 分）

山中伸一（経済協力開発機構（OECD）日本イノベーション教育ネットワークボードメンバー）

福永真弓（日本学術会議連携会員、東京大学大学院新領域創成科学研究科准教授）

高瀬堅吉（日本学術会議連携会員、自治医科大学大学院医学研究科教授）

小村俊平（株式会社ベネッセコーポレーション学校カンパニー教育イノベーション推進課課長）

横井篤文（岡山大学学長特命（国際戦略担当）上級 UGA・副理事）

モデレーター

狩野光伸（日本学術会議連携会員、岡山大学副理事（研究担当）、岡山大学大学院医歯薬学総合研究科副研究科長・教授）

12月5日【ワークショップⅠ】

16:00～18:00（岡山コンベンションセンター）

8月に行った会議の内容を踏まえながら、また上記会議の参加者のインプットを含めながら、UN-SDGsの目標17パートナーシップを念頭に、目標3医療関係、目標4教育関係、目標13・14・15（環境関連）にまずは分かれ、それぞれの目標と関連して、どんな具体的な課題がどの地域にあるかを、知る。

主な登壇者：

- ・医療（コーディネーター：狩野光伸（日本学術会議連携会員、岡山大学副理事（研究担当）、岡山大学大学院医歯薬学総合研究科副研究科長・教授）、青尾謙（公益財団法人助成財団センター 参与）、乗竹亮治（日本医療政策機構 事務局長）
- ・環境（コーディネーター：福永真弓（日本学術会議連携会員、東京大学大学院新領域創成科学研究科准教授））
- ・教育（コーディネーター：高瀬堅吉（日本学術会議連携会員、自治医科大学大学院医学研究科教授）、小村俊平（株式会社ベネッセコーポレーション学校カンパニー教育イノベーション推進課課長、経済協力開発機構（OECD）日本イノベーション教育ネットワーク事務局長）

12月6日【ワークショップⅡ】

10時00分～12時00分（岡山コンベンションセンター）

- ・1日目にアイデアを共有した結果、どのように、他の専門家と協働して次のステップに進めることができる可能性があるか、話し合う。

主な登壇者：

- ・医療（コーディネーター：狩野光伸（日本学術会議連携会員、岡山大学副理事（研究担当）、岡山大学大学院医歯薬学総合研究科副研究科長・教授）、青尾謙（（公財）助成財団センター 参与）、乗竹亮治（日本医療政策機構 事務局長）
- ・環境（コーディネーター：福永真弓（日本学術会議連携会員、東京大学大学院新領域創成科学研究科准教授））
- ・教育（コーディネーター：高瀬堅吉（日本学術会議連携会員、自治医科大学大学院医学研究科教授）、小村俊平（株式会社ベネッセコーポレーション学校カンパニー教育イノベーション推進課課長、経済協力開発機構（OECD）日本イノベーション教育ネットワーク事務局長）

他の参加者：（見込み）

- ・ 日本学術会議若手アカデミー委員数名（調整中）
- ・ 近隣の関連若手研究者
- ・ 岡山大学：関係の領域に興味を持つ、教員、職員等

（下線の講演者等は、主催若手アカデミー委員）

※参考：

並行する国連 RCE セマティック会議 「SDGs の達成に向けた RCE 第一回世界会議（First RCE Thematic Conference: Towards Achieving the SDGs）」は、下記の通りの内容である。また本ワークショップの参加者は、ワークショップに先だって開催されるこの会合にも出席することができる。

12月5日 午前

「SDGs の達成に向けた RCE 第一回世界会議（First RCE Thematic Conference: Towards Achieving the SDGs）」公開セッション

8時40分～13時00分

0840～0910 開会式

0910～0930 講演（国連大学サステナビリティ高等研究所）

0950～1120 全体会合1 SDGsを踏まえたESDのさらなる展開

1130～1300 全体会合2 岡山からSDGsを考える 一更なる産学連携の展開へー

日本学術会議九州・沖縄地区会議主催学術講演会
「海の利用と保全への新たな挑戦」の開催について

1. 主催： 日本学術会議九州・沖縄地区会議
2. 共催： 長崎大学
3. 後援： 長崎県、長崎市（予定）
4. 日時： 平成30年3月1日（木）14:00～16:10
5. 場所： 長崎大学文教スカイホール（予定）
（長崎市文教町1-14）
6. 開催趣旨： 東日本大震災以降、地球温暖化を抑制し人間社会の持続性を確保していくためのエネルギー源として、洋上風力や潮流等を利用した海洋の再生可能エネルギーへの関心が高まり、その開発・利用に関する研究の進展が強く求められている。その一方で、人口の急激な増加に伴い食料供給源としての水産資源確保の必要性が高まり、水産資源の生産を支える海洋の環境や生態系の保全が重要な課題となっている。海洋エネルギーの開発・利用と安定した水産食料資源の確保をバランスよく実現していくためには、学際的な新たな学術分野を確立していくことが必要と考えられる。そこで本講演会では、長崎県五島沖で進められている潮流発電等の海洋再生可能エネルギー開発に関する実証試験、長崎県沿岸を含む東シナ海の環境と生物資源に焦点をあて、「海の利用と保全への新たな挑戦」に関する最新の研究動向を紹介する。
7. 次第：
司会進行 伊藤 昌子（日本学術会議連携会員、長崎大学副学長）
 - (1) 開会挨拶（14:00～14:10）
 - 14:00～14:05 武内 和彦（日本学術会議副会長、東京大学国際高等研究所サステナビリティ学連携研究機構 機構長・特任教授）
 - 14:05～14:10 河野 茂（長崎大学学長）
 - (2) 講演（14:10～16:00）
 - ① 経塚 雄策（長崎大学海洋未来イノベーション機構・教授）（予定）
 - ② 河邊 玲（長崎大学海洋未来イノベーション機構・教授）（予定）
 - ③ NISHIHARA Gregory Naoki（長崎大学海洋未来イノベーション機構・准教授）（予定）

(3) 閉会挨拶

16:00～16:10 君塚 信夫（日本学術会議第三部会員・九州・沖縄地区会議代表幹事、九州大学大学院工学研究院 教授）

（下線の登壇者は、主催地区会議所属の会員・連携会員）